

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」安城校		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 4日		～ 2024年 12月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	2024年 12月 2日		～ 2024年 12月 9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 10日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	外国籍のこどもの支援を、母国語(主にポルトガル語、一部スペイン語)で直接行える外国籍の指導員が多く在籍している。日本人の指導員も日本語での支援を行っていて、共有協力のできるチームワーク態勢をとれている。	充実した支援を行えるように、日本の療育の観点で児発管が保護者の話を聞きとり、母国語で外国籍の指導員が保護者の悩みとともに課題の整理に関するヒアリングを行っている。それを丁寧な打ち合わせで共有しています。それらを充実して行えるように教室独自で、職員全員で日本とブラジルの療育の考えやメソッドに関する共有を行っています。 また、この態勢を作る課程で2言語交流を積み重ねることで、職員全員が、保護者様や子供達の困りごとを疑似体験していることにより、共感的な観点や考える視点への共有意識が高いです。	外国籍の指導員が通訳を介すことでためらいなく直接、学校の担任の先生と連絡を取り支援に生かすことができる、または日本語を必要としている子供の支援のために日本人の指導員も外国籍の学校との連携のやり取りをためらわずにできるような態勢を整えていく。
2	外国籍のこどもが日本の保育園や小学校にうまくなじんで充実した生活を送るための、連携支援をするチームワーク態勢をとれている。	早め早めの保護者への声掛けや聞き取り、それに伴う相談支援事業所、学校との連絡体制のフットワークを軽くして柔軟に対応している。また、それを充実して行えるように、スタッフ間での共有とレクチャリングを行っています。	外国籍の指導員が通訳を介すことでためらいなく直接、学校の担任の先生と連絡を取り支援に生かすことができる、または、日本語を必要としているこどもの支援のために、日本人の指導員も外国籍の学校との連携のやり取りをためらわずにできるような態勢を整えていく。
3	個別療育のみにとどまらず、必要に応じて小グループ(2～3人)での交流SSTや行事を行っている。	連携している保育園や学校での定期的なニーズの聞き取りを行い、そこから想定されるケースに応じたSSTやセッションを展開する。	必要に応じて小グループにとどまらず、少しずつ参加人数を広げてとりくみのレパトリーを増やしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用を待つこどもが多くいるが、なかなか空きが出ず、ニーズにこたえることが難しい。	療育室の不足。既定の必要な部屋数の備えがあるが、お待たせしているこどもたちのニーズに答えることができない。	現状の療育室の部屋数を工事等、工夫することで、空きの指導員がつけられることができる。
2	将来を見据えたニーズにこたえるための、教室外での活動レパトリーが少ない。	プラネタリウムで映画鑑賞する際の支払いや券売機の操作を体験するなど、2024年から少しずつ外出して課題活動をするとりくみを始めたが、活動を行うための他施設との交流や連携がまだ少ない。	より詳細な活動のレパトリーを検討して、実現に向けて打ち合わせと実行を繰り返す。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」安城校				公表日		2025年 2月 15日	
		利用児童数				20		回収数 17	
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見		ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	16	1	0	0			
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	17	0	0	0			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	16	1	0	0			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	17	0	0	0			
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	17	0	0	0			
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	17	0	0	0			
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	17	0	0	0			
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	17	0	0	0			
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	17	0	0	0			
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	17	0	0	0			
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	12	3	1	1			お子様の個別のニーズにお応えしている特性上、交流時間を設ける機会がとりにくい実情があります。今後要望に応じて検討していきたいと思います。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	17	0	0	0			
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	17	0	0	0			
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	4	2	1			個別の要望に応じてご家族への支援を行っています。ご希望に応じて今後機会を増やせるよう検討していきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	11	3	2	1			共通理解をより深めることができるよう、改善していきたいと思います。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	17	0	0	0			
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	16	1	0	0			
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	14	2	0	1			保護者様のニーズに応じて兄弟間の交流に関するSSTなど実施しています。父母の会については今後来浅井を検討していきます。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	12	2	1	2			より周知を深めてご家族様に安心感を持っていただけるよう、配慮していきます。
20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	16	0	0	1				
21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	15	1	0	1				
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	15	1	0	1				
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	16	1	0	0			
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	17	0	0	0			
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	14	2	0	1			
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	16	1	0	0			
満 足 度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	14	3	0	0			
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	17	0	0	0			
	29	事業所の支援に満足していますか。	17	0	0	0			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」安城校				公表日	2025年 2月 15日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			利用希望で待機いただいている児童への、より早い支援開始に対応できるよう対応を検討していきたいと思います。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			現在、細かくバリアフリー対応が必要な利用者さまがいらっしゃいませませんが、必要に応じて対応を検討していきたいと思います。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		利用者様向けに通訳版を教室掲示し公開しています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	現在は、利用者様と社内の二者評価を行っています。必要に応じて、今後検討していきます。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○				
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○				
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○				

適切な支援の提供	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		基本個別なので、担当指導員が単独の支援の場合、必ずしも打ち合わせをするとは限りませんが、少人数活動や他者との相互作用のとりくみの場合または、必要事項について共有し打ち合わせをしています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		気づいた点や、支援上で重要な点、成長面などを共有しています。(支援が最終の時間の時は次の日に共有)	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		スケジュールや翻訳の都合で、担当の指導員の参画がどうしても難しい場合は、担当者や詳細な打合せを行い、会議の参加者が情報を共有しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学準備として園や学校と近況等を共有して課題にとりくみ、進展と効果的な支援について学校を含めて共有しています。	
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		助言を受ける以外にも、利用者様の状況や就学進路に応じて、より適切な相互支援に配慮し、連携を進めています。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	△			効果的な支援のための連携共有が多いが、交流活動の機会はあまりないので、他児との交流活動については今後検討していきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	△			必要に応じて個別での家族支援プログラムを実施していますが、家族参加の研修等については今後検討していきます。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	保護者様のニーズに応じて兄弟間の交流に関するSSTなど実施しています。	父母の会については今後浅井を検討していきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	2024年度は大学進学の際、日本語対応の為、学生本人が主体となって入学に関する下調べと手続きを進める必要があります保護者様、ご本人の双方から相談があったため、不安な時の助言を細かく行いました。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	△		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	玄関受付部に閲覧ファイルを常設し策定されたマニュアルや、改定に伴う変更点のお知らせなど周知を行っています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	保護者様からの聞き取りを元に、定期的にその後の変化など様子をお聞きしてスタッフ間で共有し把握しています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	玄関受付部に閲覧ファイルを常設しお知らせなど周知を行っています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	定期的な研修とともに、虐待防止委員会からの事例確認や周知理解を進めています。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	研修時に周知理解し共有しています。（現状は該当がありません。）		